

## 2021年度 第2回 浜松市総合教育会議 次第

日時：2021年12月21日(火) 15:00～

場所：庁議室

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

### 3 協議事項

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について 資料1

### 4 報告事項

特別な支援を要する子供への支援充実について 資料2

(2020年度 第2回 協議事項)

### 5 閉会

2021年度 第2回総合教育会議

# 新しい時代の学びを実現する 学校施設の在り方について

学校教育部教育施設課  
2021年12月21日(火)

1

## 目次

1	本日の論点	.....	P 3
2	背景と現状	.....	P 4
3	国の中間報告	.....	P 9
4	対応策～浜松市の方向性～	...	P 14
	(参考) 実施スケジュール	.....	P 33

2

## 新しい時代に対応した学校施設 (学校施設標準空間モデル浜松市Ver.) の検討及び施設最適化の推進

- 新しい時代の学びを実現する学校施設について
- 教育環境向上と老朽化対策等の一体的な推進について

### ① 新しい時代 (Society5.0,ポストコロナ) の到来

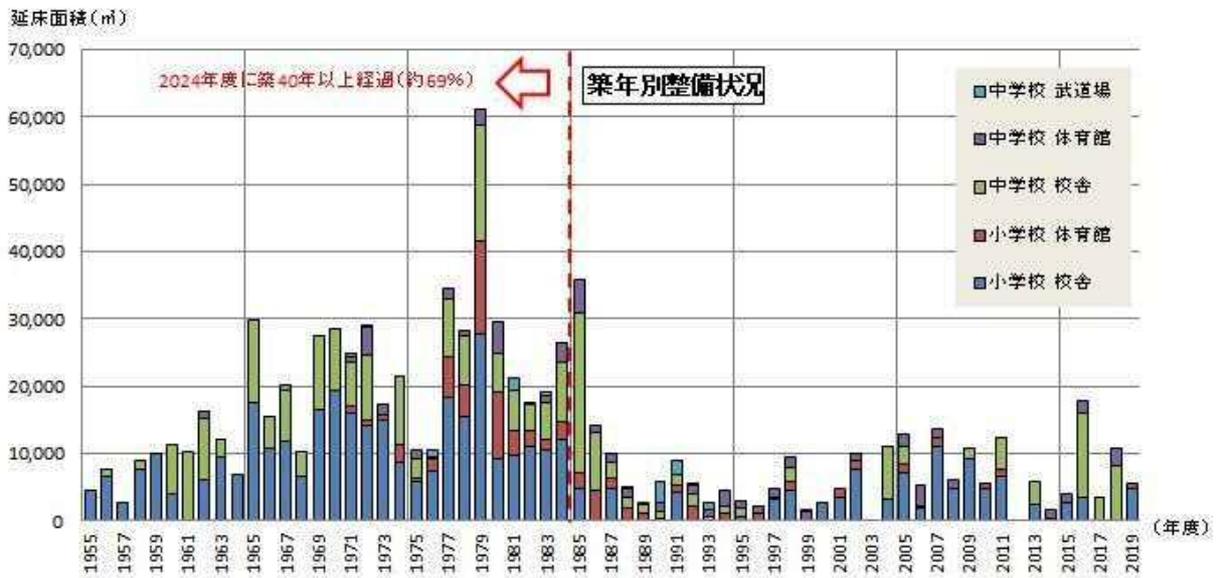
- ◆ 人工知能 (AI) 、ビッグデータ、IoT、ロボティクスなど先端技術が高度化し劇的に変化する社会の到来
- ◆ 基礎的学力習得とともに、個人の進度・能力・関心に応じた学び、異年齢・異学年集団との協働学習、大学・研究機関・企業など地域資源を活用した学び (新たな社会を牽引する人材の育成)
- ◆ 新型コロナウイルス感染拡大など予測困難な時代



《本市の対応》

GIGAスクール構想に基づく 1人1台タブレットの整備

② 本市における学校施設の状況



② 本市における学校施設の状況

- ◆ 141校521棟の学校建築物を所有（市所有施設の4割を占める膨大なインフラ）
- ◆ 約7割が築40年以上経過（莫大な更新費用が必要）



《本市の対応》

浜松市学校施設長寿命化計画（2020～2024年度）に基づく小規模改修（屋根・外壁）及び基幹設備更新を実施

### ③ その他

#### ◆ 法改正対応

⇒小学校35人学級制、バリアフリー法改正

#### ◆ ニーズの高まり

⇒発達支援学級、放課後児童会、インクルーシブ教育、  
避難所・地域利用など教育目的外での活用

#### ◆ 人口減少と局地的な人口増加

⇒全体では減少、市街地縁辺集落制度、区画整理など

#### ◆ 施設・設備維持管理費の増大

⇒普通教室空調導入など附帯設備整備の増加



《本市の対応》

学校施設使用・劣化状況調査等の実施（2021年度）

## 浜松市における課題（まとめ）

- 学びのスタイルの変容や求められる役割・機能など、  
新たな時代に対応した学校施設の在り方の検討
- 安全・快適かつ機能的な教育環境の整備  
（防災・減災、安全管理、動線配慮など）
- 法改正など全国共通課題や局地的な人口集中など本市  
独自課題への対応
- 大量更新を迎える学校施設の計画的な整備  
（財政負担軽減・平準化、長寿命化、人口減少下  
における公的ストックの最適化・有効活用など）
- 施設整備プロセスにおける関係者等との協議  
（民間資金や知見の活用含む）

## 新しい時代の学びを実現する 学校施設の在り方について (中間報告)

2021年8月公表

### ① 概要

新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について、具体的・専門的な検討を行うため設置された、「新しい時代の学校施設検討部会（「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議（文部科学省）」に設置された部会）」で、取りまとめられたもの。

### ② 期間

2021年1月27日から2022年3月31日まで

### ③ 委員

赤松佳珠子法政大学デザイン工学部教授ほか10名

9

#### ◎ 新しい時代の学びの姿

- ◆ 社会情勢の変化
- ◆ 「令和の日本型学校教育」の姿
- ◆ 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた改革の方向性

#### ◎ 学校施設の課題

- ◆ 新しい時代の学びへの対応の必要性
- ◆ 学校施設の機能面等における現状と課題
- ◆ 学校施設の安全面等における現状と課題
- ◆ 公的ストックの最適化等における現状と課題

## ビジョン：Schools for the Future

～ 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、  
学校施設全体を学びの場として創造する ～

新しい時代の学びを実現する学校施設の姿

# 5つの姿の方向性

10

【新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮】

- 学び** **柔軟で創造的な学習空間の実現**
  - 学習空間の転換（均質・画一的 ⇒ 柔軟・創造的）
  - 学校図書館の整備（ラーニングcommons）
  - 教材製作空間（スタジオ）、コミュニケーション等の場
- 生活** **健やかな学習・生活空間の実現**
  - 温かみある居場所リビング空間（小教室、コーナー、木材利用）
  - 空調設備の整備、トイレの洋式化・乾式化、非接触化
- 共創** **ともに創出する共創空間の実現**
  - 地域との連携・協働の場となる「共創空間」の創出
  - 地域活性化を目指した他の公共施設等との複合化・共用化等の促進

【新しい時代の学び舎の土台として着実に整備を推進】

- 安全** **安全・安心な教育環境の実現**
  - 老朽化対策等
  - 避難所として自家発電・情報通信設備、バリアフリー、水害対策等の防災機能の強化
- 環境** **持続可能な教育環境の実現**
  - 高断熱化、省エネルギー化、太陽光導入促進（ZEB化）
  - 木材利用（木造化、室内利用）の推進

これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿



新しい時代の学び舎として創意工夫により特色・魅力を発揮するものとして

「幹」：教育という軸 **学び**

「枝」：学びを豊かに **生活** **共創**

「根」：学び舎の土台 **安全** **環境**

## 新しい時代の学びを実現する学校施設整備の推進方策

point

### 学校設置者における推進方策

- 長寿命化改修を通じ、新しい時代の学びに対応した**教育環境向上と老朽化対策を一体に推進**
- **首長部局と協働**し、中長期視点から計画的・効率的な整備を推進
- **多様な整備手法等も活用**し、施設整備と維持管理を着実に推進
- **学校関係者等の参画**により、豊かな学びの環境整備を推進

point

### 国における推進方策

- **学校施設スタンダードの提示**
- 学校施設整備の**優先度の可視化**と計画的・効率的整備の促進
- 学校施設整備のための**財政支援制度の見直し・充実**
- 学校施設整備・活用推進のための**プラットフォームの構築**
- 先導的モデル研究を通じた**新たな学校施設モデルの提示**
- **学校施設整備指針の改訂**

13

## 1 新しい時代の学びを実現する「教育環境の整備」、 「老朽化対策」、「その他本市独自課題への 対応」の一体的な推進

- I. 「**5つの姿の方向性**」を踏まえた教育環境の整備
- II. 「施設最適化」に向けた**合理的な事業計画**の策定
- III. 「未来思考」で価値を捉えた**標準モデル**の作成

14

I. 「5つの姿の方向性」を踏まえた教育環境の整備

学び

- ICTを最大限活用できる学習空間や執務空間の形成  
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の両方を  
実現する柔軟で創造的な学習空間の実現

学び

- 柔軟な学習空間（気賀小学校）



学び

- 柔軟な学習空間（気賀小学校）  
⇒ 1年生 図画工作科「造形遊び」の様子



17

学び

- 柔軟な学習空間（南の星小学校）  
⇒ 高学年 イベント企画・制作の様子



18

I. 「5つの姿の方向性」を踏まえた教育環境の整備

生活

共創

- 児童・生徒が健やかな学校生活を過ごせる生活空間の形成
- 地域の人たちと連携・協働していく活動・交流拠点とする「共創空間」の形成
- トイレの洋式化・乾式化、手洗い設備の非接触化などポストコロナ時代への対応

生活

- 小空間の活用（井伊谷小学校）  
⇒ グループ学習の様子



生活

- 小空間の活用（井伊谷小学校）  
⇒ 休み時間に、児童が戯れる様子



21

生活

- 小空間の活用（井伊谷小学校）  
⇒ 先生との相談の様子



22

共創

■ 共創空間（北部中学校）



I. 「5つの姿の方向性」を踏まえた教育環境の整備

安全

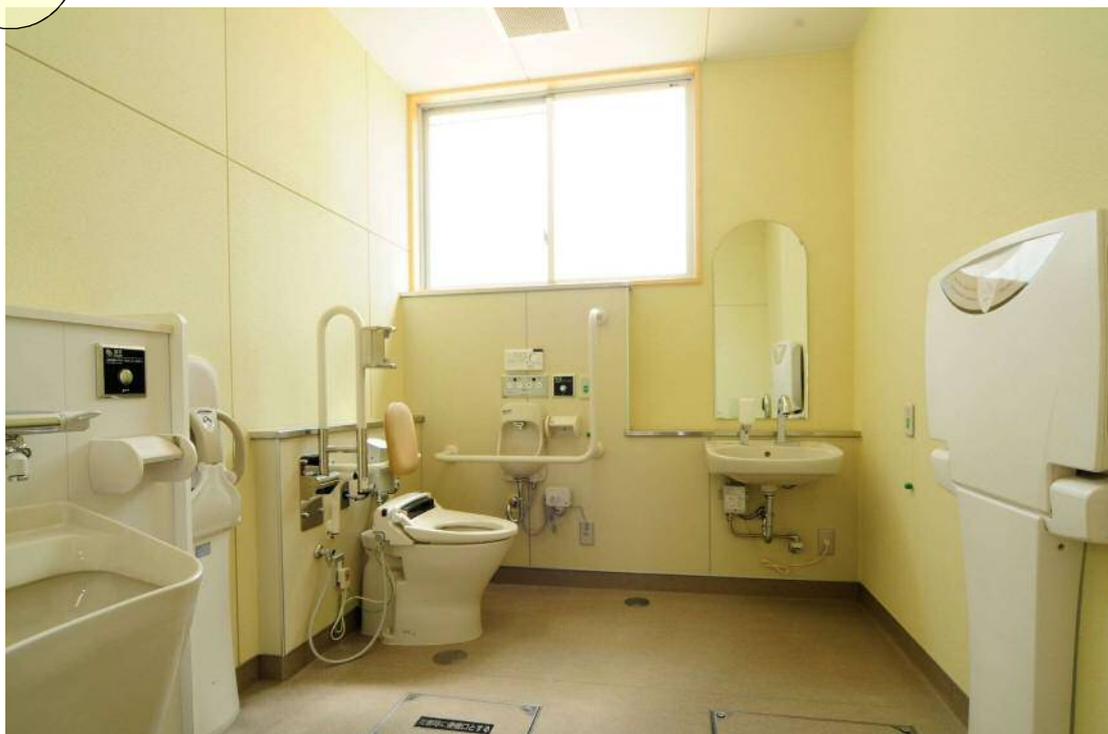
環境

- 目標使用年数を80年とした施設の長寿命化、地域共生を目指した複合化・共有化・集約化
- バリアフリー化、非構造部材の耐震化などの防災機能の強化
- 高断熱化、照明LED化、再生可能エネルギー導入など学校施設のZEB（※）化、木造化・木質化の促進

※ ZEB…Net Zero Energy Building（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の略称で、省エネや創エネによってエネルギー消費量を正味（ネット）でゼロにすること

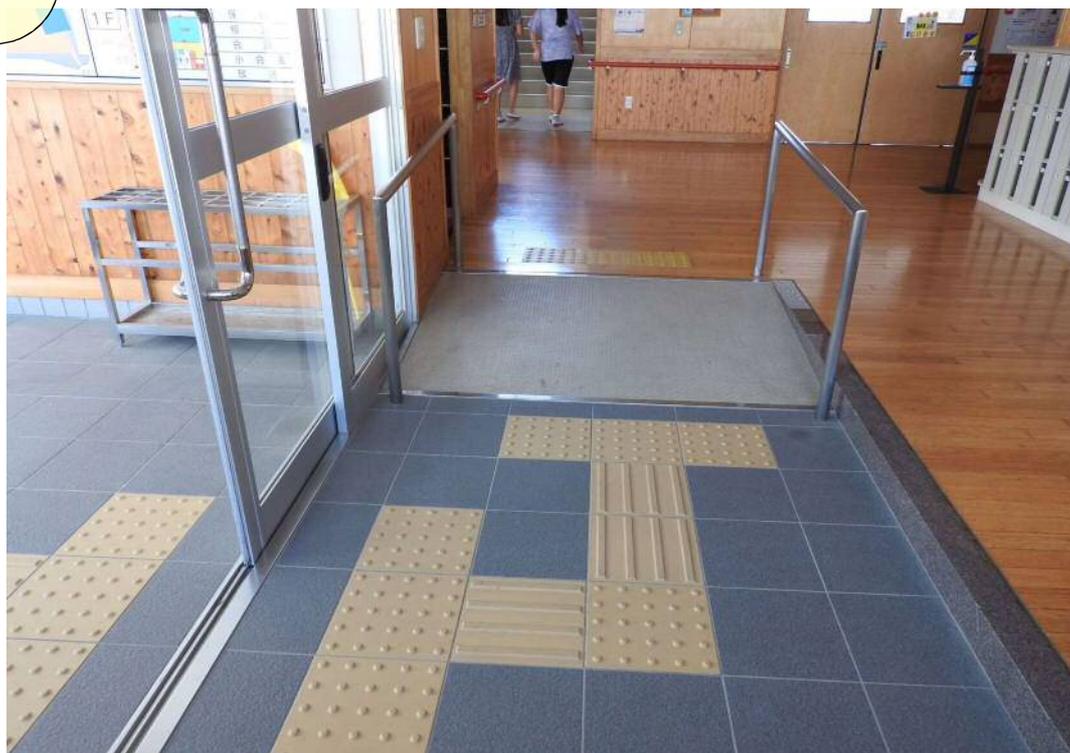
安全

■ 多目的トイレ（内野小学校）



安全

■ 段差解消（舞阪小学校）



環境

■ 複合化（南の星小学校・南の星幼稚園）



環境

■ 木造化（光が丘中学校）



環境

■ 内装木質化（浜松中部学園）



29

II. 「施設最適化」に向けた合理的な事業計画の策定



- 施設最適化、財政負担軽減・平準化を実現する、新たな長寿命化計画の策定
- 社会ニーズの高い整備に関する単独事業計画の策定

30

### III. 「未来思考」で価値を捉えた**標準モデル**の作成



#### ■ 将来的な社会ニーズにも対応可能な学校施設空間の標準モデル（浜松市Ver.）の作成

- 最適化を図った整備標準（規模・機能・教室配置 etc.）
- 事業手法ごとの整備モデル（改築、長寿命化改修）
- 転用にも対応可能な柔軟な空間形成

## 2 多様なステークホルダーとの官民一体となった施設整備の検討・推進

- ① 学校関係者等との調整
- ② 民間事業者との調整
- ③ 庁内関係部局との連携
- ④ 「学校施設整備適正化推進本部」による部内包括的な検討

(参考) 実施スケジュール

2021年度	2021年12月	新しい時代の学びを実現する学校施設の姿 (ビジョン) への本市の対応策 (案)
	2022年 3月	「新しい時代の学びを実現する学校施設の 在り方について」最終報告 (文部科学省)
2022年度	2022年12月	新しい時代の学びを実現する学校施設の 在り方 (実施方針、学校施設空間標準モデル 浜松市Ver.、ロードマップ等) 策定
	2022年度中	<ul style="list-style-type: none"><li>・次期長寿命化計画骨子・各整備計画策定 次期長寿命化計画、バリアフリー化推進 事業計画、照明施設LED化更新事業計画、 空調設備整備事業計画</li><li>・モデル校の抽出・決定</li></ul>
2023年度	2023年度中	<ul style="list-style-type: none"><li>・(仮称) 浜松市学校施設整備方針等策定 学校施設整備適正化計画、学校施設整備 標準等</li><li>・モデル校基本構想・基本計画</li></ul>

## 報告事項 特別な支援を要する子供への支援充実について ～教育的ニーズに応じた多様で柔軟な教育の充実について～

2020年度  
第2回協議事項

### 1 協議結果

- ・ 全ての教員の発達支援教育に関する知識やスキルを向上させていかなければならない。そのためには、発達支援教育への理解を深める研修（特に専門家による研修）等の機会を増やすとともに、研修等を受講できる体制づくりが必要である。
- ・ 支援を必要とする子供の早期発見・早期支援のために、効果があるならより多くの学校で多層指導モデルM I Mの導入を進めてはどうか。

### 2 2021年度の取組状況

#### (1) 発達支援教育に関する研修について【教育センター】

##### ア 研修対象・内容の充実 **別紙1参照**

- ・ 発達支援教育担当職員だけでなく、校長や若手教員、その他希望する教員を対象とした研修を実施。
- ・ 大学教授や研究機関の研究者、医師など、発達支援教育に精通する専門家に講師を依頼。

##### イ 研修形態の工夫

- ・ コロナ禍においても研修受講機会の確保を図るため、オンデマンド（動画視聴）やオンラインによる研修を積極的に導入。
  - ①オンデマンド ⇒動画視聴（Classroom、映像配信システム）
  - ②オンライン ⇒双方向型（meet または Zoom）
  - ③オンラインミニ ⇒双方向型、開催時間帯 15:00～16:30

#### (2) 「多層指導モデルM I M」について【教育総合支援センター】

##### ア 「M I Mデジタル版」の導入 **別紙2参照**

- ・ 9月から通級指導教室設置校 13校にM I Mデジタル版を導入し、タブレット型端末を使用して通常学級や通級指導教室での活用を推進。
- ・ 2019年度・2020年度の指定校研究を行った南の星小では、1年生全児童を対象にM I Mの指導を行い、約4割の児童にM I Mテストの到達度上昇効果が認められた。

##### イ M I M導入研修の実施

- ・ 南の星小教員を講師として、13校の通級指導教室担当者を対象にM I M導入研修を実施。
- ・ 研修を受けた通級指導教室担当者が中心となり、校内での導入研修を進めている。
- ・ 開発者の海津亜希子氏から、読み書きに困難さをもつ子供の特性を理解し、そのつまずきに合わせた具体的な指導法に関する研修を実施。

### 3 今後の取組

#### (1) 発達支援教育に関する研修について【教育センター】

- ・ 発達支援教育リーダー（2012年度～2016年度）のフォローアップ研修を発展的に解消し、新たな発達支援教育リーダーを育成する研修を実施していく。
- ・ 今年度から導入したオンラインミニ研修を拡充することで、学校にしながら研修を受講しやすい体制づくりに努める。

#### (2) 「多層指導モデルM I M」について【教育総合支援センター】

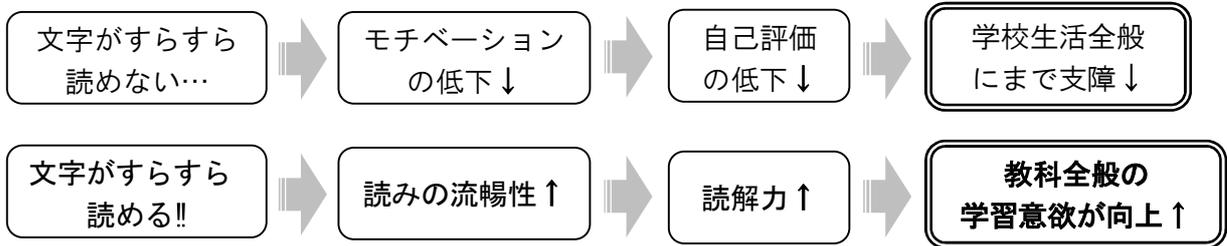
- ・ M I Mの導入成果と課題について検証を進める。
- ・ 次年度に向けて、全小学校の教員が受講できるよう「多層指導モデルM I Mの指導法」のオンデマンド研修用動画を整備する。

## 2021年度 発達支援教育に関する研修一覧

種別	研修名	講師 *敬称略	対象	研修形態	
全校 悉皆	校長発達支援教育研修	和久田 学 (子どもの発達科学研究所主席研究員)	校長	集合	
	小中学校発達支援教育コーディネーター研修	井上 秀和 (国立特別支援教育総合研究所主任研究員)	発達支援教育コーディネーター	オンライン	
該 当 悉 皆	初任者研修(教諭)	教育総合支援センター 指導主事	1年目の教員	集合	
	《新規》2年目研修(教諭)	内山 敏 (浜松市発達相談支援センタールピロ所長)	2年目の教員	オンライン	
	6年目研修(教諭)	大嶋 正浩 (メンタルクリニックダダ院長)	6年目の教員	集合	
	新規小中学校発達支援教育コーディネーター研修	教育総合支援センター 指導主事 平川 悦子(浜松市SSW) 岡田 久代(元八幡中学校長)	新規に発達支援教育コーディネーターとなった教員	オンライン	
	発達支援教育リーダーフォローアップ研修	和久田 学 (子どもの発達科学研究所主席研究員)	2012年度～2016年度 発達支援教育リーダー	集合	
	新規発達支援学級担当教員研修①～④	①指導課指導主事 ②発達医療総合福祉センター医師、 シグナル相談員、児童発達支援センター、 浜松市立小中学校教諭 ③発達支援教育リーダー ④横山 孝子(浜松学院大学教授)	新規に発達支援学級の 担任となった小中学校 教員(特別支援学校教員 経験者は免除)	①オンデマンド ②集合 ③会場校 ④オンデマンド	
	通級指導教室(言語)担当教員研修	小林 マヤ(昭和女子大学教授)	通級指導教室(言語) 担当教員	オンライン	
	通級指導教室(LD等)担当教員研修	小川 修史(兵庫教育大学准教授)	通級指導教室(LD・ ADHD・高機能自閉等) 担当教員	オンライン	
	発達支援教室支援員研修	教育総合支援センター 指導主事	発達支援教室支援員	集合	
	新規スクールヘルパー研修	教育総合支援センター 指導主事	2021年度に初めてスクールヘルパーとして任用された者及び2020年度途中で初めてスクールヘルパーとして任用され、この研修に参加していない者のうち、校長が参加を認める者	集合	
希 望	級 発 担 当 支 援 員 学 級 支 援 学 校	I【発達支援学級の授業づくり】	横山 孝子(浜松学院大学教授)	発達支援学級担当教員	オンデマンド
		II【自立活動】	横山 孝子(浜松学院大学教授)	発達支援学級担当教員	オンデマンド
	発 達 支 援 教 育 研 修	I【医療との連携・幼稚園保育公開】	浜松市発達医療総合福祉センター 医師、 臨床心理士、シグナル相談員	幼稚園教員、小学校教員	集合
		II【医療との連携・小学校 発達支援学級授業公開】	浜松市発達医療総合福祉センター 医師、 臨床心理士、シグナル相談員	小中学校教員	集合
		III【愛着障害】	米沢 好史(和歌山大学教授)	幼稚園、小中高等学校 教職員	オンライン
		IV【LD支援(読み書き)】	海津 亜希子(特総研主任研究員)	幼稚園、小中高等学校 教職員	集合
		《新規》V-①【子供理解と支援(基礎編)】	大須賀 優子 (子どもの発達科学研究所主任研究員)	幼稚園、小中高等学校 教職員	オンライン ミニ
		《新規》V-②【子供理解と支援(発展編)】	大須賀 優子 (子どもの発達科学研究所主任研究員)	幼稚園、小中高等学校 教職員	オンライン ミニ
スクールヘルパー・発達支援教室支援員研修	(発達支援教育研修V-①・Ⅲ・Ⅳと同様)	スクールヘルパー 発達支援教室支援員	集合 オンライン		

## 多層指導モデルMIM (Multilayer Instruction Model) について

### 1 「読み」のつまずき



- ・読みの中で特につまずきが多いのが「特殊音節」※であり、入学初期において丁寧な指導を行い読みの流暢性を高めていくことが必要。

※「特殊音節」とは…つまる音（促音）「例：ひこうき」、のびる音（長音）「例：きって」、ねじれる音（拗音、拗長音）「例：きゃべつ」

### 2 「多層指導モデルMIM」とは

- ・初期の「読み」の指導における最大の難関である「特殊音節」に焦点を当て、文字や語句を正しく読んだり、書いたり、なめらかに読んだりすることをめざす指導モデル。
- ・客観的なアセスメント（評価・分析）と連動した指導法（トレーニング）で、子どもがつまずく前に、またはつまずきが深刻化する前に指導・支援を提供することを目指す。
- ・本市では「MIMデジタル版」を導入し、タブレット型端末を活用した指導を実施している。

#### ◆多層指導のイメージ



#### ◆「MIMデジタル版」の特徴

- ① 苦手な課題であっても視覚化や動作化、音声化などICTを活用した多角的なヒントが用意され、必要に応じて使うことができる。
- ② 達成度が確認でき、モチベーションの向上が期待できる仕掛けが用意されている。
- ③ 指導者の個別対応への時間など、指導環境の確保が難しい時でも指導の提供ができる。
- ④ 採点や個人のアセスメントを自動で行うため、指導する教員の働き方改革につながる。